

第1分科会 国際理解教育 記録

記録者：岡山市立芥子山小学校 井原進一郎

【自分の思いや考えを表現できる生徒の育成】

- ・冊子に沿っての発表で、特に追加説明はありませんでした。

【私たちの町にオリンピックが】 メモを朱書きで残しています。

2 実践事例

(2) 3つのプロジェクトチームでの活動内容

①オリンピック選手への働きかけ 文化部

- ・女子ソフトボールチームとの交流 投球を見せてもらったり、バッティング体験をしたりした
- ・車椅子女子バスケットボールチームとの交流 事前学習をしっかり行い、有意義な交流だった
- ・出場団体宛に激励の寄せ書きとビデオを作成

寄せ書きは各クラス1団体を担当、ビデオは結団式で紹介してもらった

②オリンピック啓発活動 体育部

冊子の内容以外に、小学部ではオリンピックを題材にした作品制作に夏休み取り組んだ

③学習への活用 研究部

今回の取り組みを研究収録として残した

④その他の活動

- ・ジャパンハウスへの協力

JOCとの交流（オープニングイベントへの参加、野球・女子ソフトチームとの交流）

- ・全校児童生徒のパラリンピック観戦

全校約700名で車椅子バスケ、水泳、陸上に分かれて観戦した

※最後に追加報告として

- ・北京オリンピックに向けたマナー向上運動によって、北京市民のマナーは格段に向上した。今までの中国ではマナーについて十分教育されていなかったのでは。教育の大切さを感じた。
- ・パラリンピック開会式で日本人選手団が入場する際、会場が静まった。日本は中国からよく思われていないことを肌で感じた。

【集まれ！小さな外交官の取り組みについて】

1 はじめに

○「集まれ！小さな外交官」とは

目的 海外における経験や帰国後の経験・悩みを語り合い、お互いの理解を深める場を提供する

参加者 広島県在住の帰国子女（例年20名弱）

1泊2日の日程で広島市内で合宿をする。大学生がボランティアとして参加している。

2 活動報告

- ・写真での報告でした

3 帰国子女の現状

○交流タイムで出てきた子供たちの意見

《海外での経験》

- ・祭りや施設、生活の違いや交流が楽しかった。
- ・生活の違いに慣れるのに困った

《困っていること》

- ・外国人と呼ばれた
- ・英語のときにまだ日本では学習していない単語を使ったらいやな噂を流され、保健室登校になった。（同様に英語の発音で、わざと日本人っぽい発音をするなど、自分を隠している生徒の実態が報告された）
- ・ランドセルのがらの違いでいじめにあった。
- ・海外生活の話ができない（先進国の話をすると生意気と言われ、発展途上国の話をすると汚いといわれる）

《将来について》

- ・自分の経験を歌にするアーティストになりたいという子供を紹介
- ・帰国子女の先輩が英語を生かして留学し、さらにスペイン語を学んで留学したいといっているという事例を紹介したと報告。

《事前アンケート》

- ・子供からは同じ経験を受け入れてくれるからうれしいという意見
- ・保護者からは帰国子女であることをアピールすると日本の友達に嫌がられるということと在外経験をプラス材料にしてほしいという意見が寄せられたと紹介。

4 今後の課題

①子供たちの現状を知ってもらうこと

②現在広島県内の帰国子女の数が正確に把握できておらず、人伝いに帰国子女を確認し、連絡を取っているのが現状なので、県内帰国子女の実態を把握していく必要がある。

※帰国子女の子供たちが自分を出せるようにがんばっていきたい。

【台北日本人学校での取り組み】

- ・冊子に沿っての発表で、特に追加説明はありませんでした。

【質疑応答】

○問題提起として（広島県呉市立〇〇小学校 谷中先生）

帰国子女が不登校になるケースは多く、東京の同僚の子供も不登校となり、私立学校に転校した。5年生の時帰国子女としていじめの対象となった子供もいる。ここには日本の教育の課題「異質の排除」という問題があるのでないか。ロンドン日本人学校に勤務しているとき、スペインからの転校生があり、生活態度が非常に乱れており荒れていた。ある時その生徒と話をしていると、「スペインのとき苦勞した。」とのこと。そのことをみんなに説明してほしいと頼むと、保護者も協力して素晴らしい発表をしてくれた。その後その生徒は変わり、学習意欲も出てきた。このようなことを教育現場にどう生かしていけばよいのだろうか。

○小さな外交官の取り組みについての質問（岡山市立中央小学校 国坂先生）

小さな外交官に大変興味をもった。中学2年生で帰国した子供がいじめの対象となり、不登校となった。その子供にも小さな外交官のような場があればと発表を聞きながら感じた。高学年からいくつか悩みが出てきたが、そのような悩みをフォローできる場はあったのか。

回答

現在は合宿のみの活動で、具体的なフォローはできていない。帰国子女はまず自分の悩みを聞いてもらいたいという気持ちがある。両親を悲しませたくないという思いから、親にも相談できていない場合が多い。まずは同じ経験や悩みを共有できる場が大事と考え、そのような場を提供している。